

2022年度 卒業生・修了生キャリアアンケート調査結果

【1. 調査の概要】

1. 調査対象

2021年3月に星美学園短期大学幼児保育学科を卒業または、専攻科幼児保育専攻を修了し、本学で取得した資格を活かして就職した卒業生を対象として実施した。主な資格(幼稚園教諭二種免許状、特別支援学校教諭二種免許状、保育士資格等)
次の表「卒業生・修了生進路(就職・進学)状況」の、青色部分が幼児保育学科調査、緑色部分が専攻科幼児保育専攻の調査対象数となる。

2020年度卒業生・修了生進路(就職・進学)状況

学科	幼児保育学科卒業生							専攻科幼児保育専攻修了生											
在籍数	62							63											
卒業/修了者数	57							61											
進路決定者数	(就職)3			(進学)5		(その他)2		(就職)58					(進学)2		(その他)1				
進路内訳	幼稚園	児童福祉施設	特別支援学校(臨時)	一般企業	一般企業有期雇用	その他	進学	幼稚園	保育所	こども園	公務員(非常勤含む)	障害施設	児童福祉施設	特別支援学校(臨時)	一般企業	一般企業有期雇用	その他	進学	
							専攻科											大学	専門
	0	1	0	0	2	2	52	13	28	1	5	2	3	4	2	0	1	1	1
進路決定率	100%							100%											

2. 調査期間及び方法

2021年12月～2022年1月28日の期間に実施した。アンケート調査依頼は、就職先と、社会人1年目、社会人2年目の卒業生・修了生に書面にて調査への協力の依頼をした。回答は、回答用紙に記入してもらい、同封の返信用封筒で返送してもらった。

3. 回収率

就職先からの回答は、52名中、37名の回答が得られ、回収率は71%であった。

2020年度(社会人1年目)修了生、卒業生からの回答は、56名中、30名から回答が得られ、回収率は54%であった。

2019年度(社会人2年目)修了生、卒業生からの回答は、53名中、24名から回答が得られ、回収率は26%であった。

4. 主旨と目的

本学の幼児保育学科、専攻科では、下記の「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」を掲げ、教育を行っている。その教育成果を自己評価するために、このたびアンケート調査を計画した。アンケート調査(別紙)の目的は、本学2020年度卒業生、修了生(2020年4月から勤務、社会人1年目)、2019年度卒業生、修了生(2019年4月から勤務、社会人2年目)が次のディプロマ・ポリシーを身につけているかを評価し、今後の本学の教育改善に結びつける。

星美学園短期大学の幼児保育学科ディプロマ・ポリシー

1. 保育の実践力: 保育をする上で必要な基本的知識・技術を身につけ、説明、実践することができる。(知識技術)
2. 共感する心 : 子どもをいとおむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる(共感愛情)
3. 言葉で表現する力: 保育をする上で適切な言葉を用いて話す力、書く力を身につけている。(言葉遣い、文章を書く)
4. 人とかかわる力: 他者と協働しながら計画・実施・振り返り・改善する体験を通して、社会性を身につけている。(協働)

星美学園短期大学の専攻科ディプロマ・ポリシー

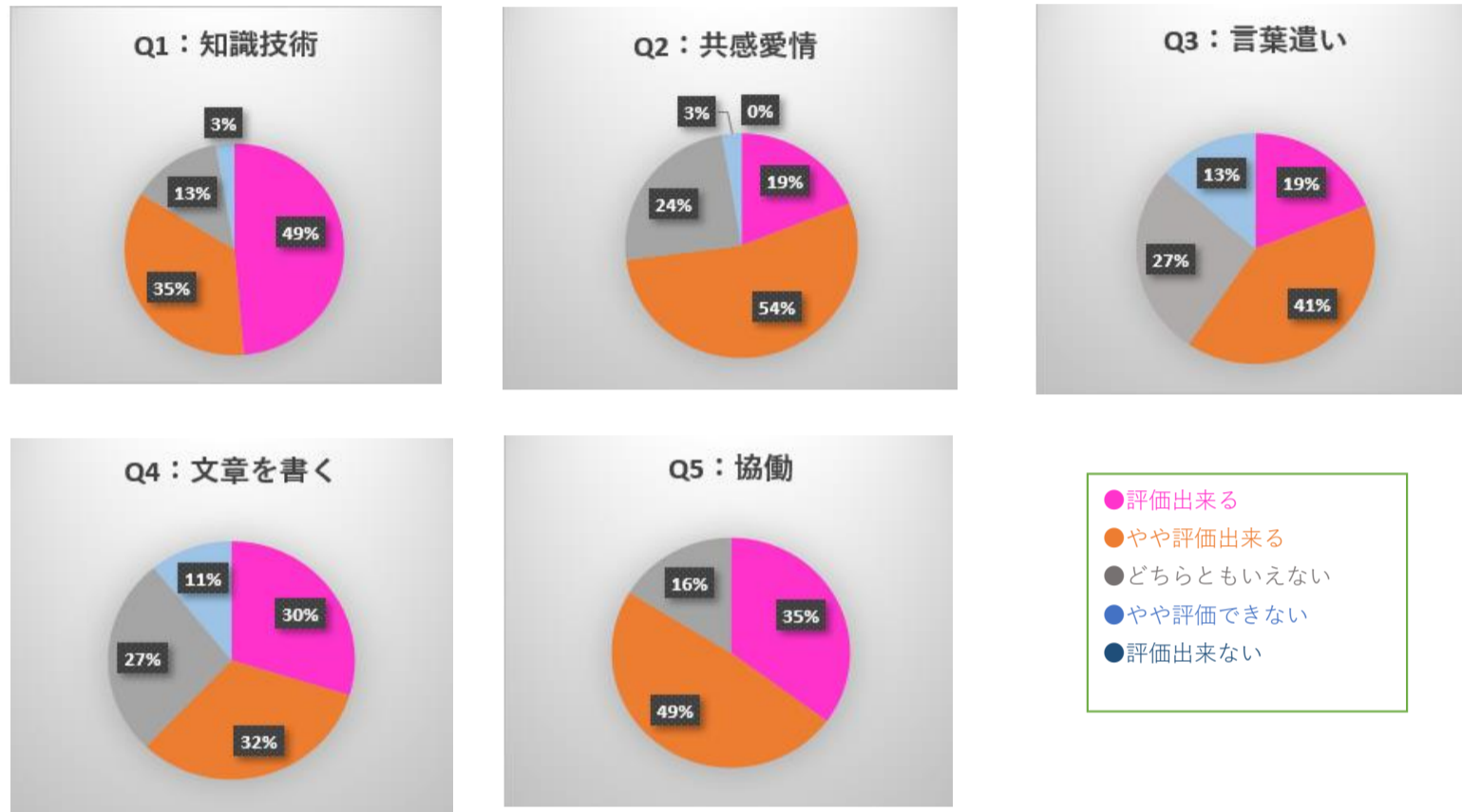
1. 保育の実践力: さまざまな保育技術のうち、自ら選んだ分野に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力することができる。(知識技術)
2. 共感する心 : さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけている。(共感愛情)
3. 言葉で表現する力: 保育や子どもにかかわる事象、諸問題を、文献や実践・現場調査から客観的な判断に基づいて説明することができる。(言葉遣い、文書を書く)
4. 人とかかわる力: 保育チームティーチングを行うために、チームの一員として協議や企画に積極的に参画することができる。(協働)

【II. 2021年3月 修了生(2020年度修了) 就職先へのアンケート個人評価】 n=37

37名/52名 回収率71% :件)

質問	1	2	3	4	5
Q1: 保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	18	13	5	1	0
Q2: さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	7	20	9	1	0
Q3: 保育(業務)を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	7	15	10	5	0
Q4: 保育(業務)を行う上で、適切な文章が書けていると評価できますか。	11	12	10	4	0
Q5: 他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	13	18	6	0	0

※評価: 1-評価出来る 2-やや評価できる 3-どちらとも言えない 4-やや評価できない 5-評価出来ない

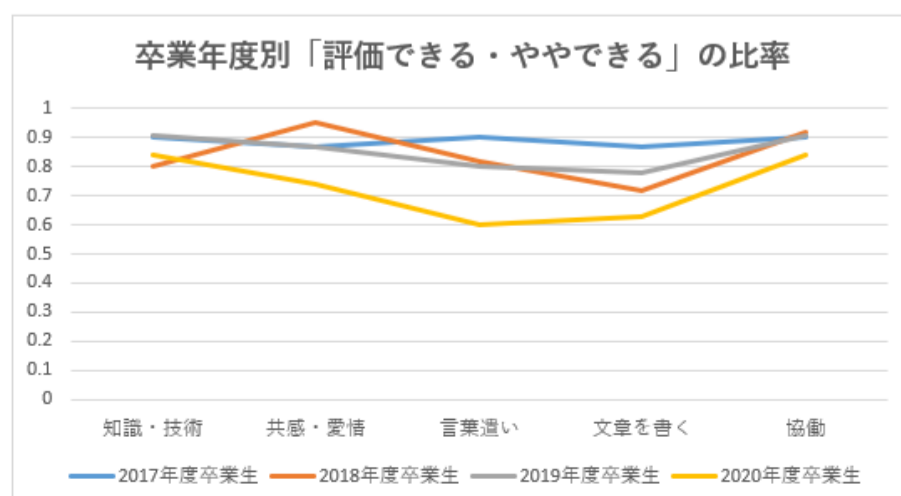


2017年度～2020年度卒業生・修了生就職先へのアンケート回答結果「評価できる・評価できない」の割合

	評 価	Q1 知識・技術	Q2 共感・愛情	Q3 言葉遣い	Q4 文章を書く	Q5 協働
		2017年度卒業生	できる・ややできる 4%	90% 3%	87% 3%	90% 4%
2018年度卒業生	できる・ややできる 2%	80% 2%	95% 2%	82% 0%	72% 5%	92% 0%
2019年度卒業生	できる・ややできる 4%	91% 4%	87% 2%	80% 9%	78% 9%	91% 2%
2020年度卒業生	できる・ややできる 3%	84% 3%	74% 3%	60% 14%	63% 11%	84% 0%

数字は上段: 評価できる・やや評価できる 下段: やや評価できない・評価できないをそれぞれ合計した値

	知識・技術	共感・愛情	言葉遣い	文章を書く	協働
2017年度卒業生	0.9	0.87	0.9	0.87	0.9
2018年度卒業生	0.8	0.95	0.82	0.72	0.92
2019年度卒業生	0.91	0.87	0.8	0.78	0.91
2020年度卒業生	0.84	0.74	0.6	0.63	0.84



<総評>

<就職先からの回答結果について>

令和2(2020)年度卒業生・修了生の就職先へのアンケートは、52施設に配布、うち37施設からの回答が得られた(回収率71%)。

Q1「保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか」(知識技術)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が84%(前年度91%)、「やや評価できない」「評価できない」が3%(前年度4%)、「どちらともいえない」が13%(前年度5%)であった。前年度に比べて、高評価が7ポイント減り、「どちらともいえない」が8ポイント増えた。一方で、低評価は1ポイント減っている。

Q2「さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか」(共感愛情)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が73%(前年度87%)、「やや評価できない」「評価できない」が3%(前年度2%)、「どちらともいえない」が24%(前年度11%)であった。高評価が14ポイント減り、低評価が1ポイント、「どちらともいえない」が13ポイント増えた。

Q3「保育(業務)を行う上で、適切な言葉遣いができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか」(言葉遣い)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が60%(前年度80%)、「やや評価できない」「評価できない」が14%(9%)、「どちらともいえない」が26%(前年度11%)であった。高評価が20ポイント減り、低評価が5ポイント、「どちらともいえない」が15ポイント増えた。

Q4「保育(業務)を行う上で、適切な文章が書けていると評価できますか」(文章力)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が62%(前年度78%)、「やや評価できない」「評価できない」が11%(前年度9%)、「どちらともいえない」が26%(前年度13%)であった。高評価が15ポイント減り、低評価が5ポイント、「どちらともいえない」が13ポイント増えた。

Q5「他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか」(協働)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が84%(前年度91%)、「やや評価できない」「評価できない」が0%(前年度2%)、「どちらともいえない」が16%(前年度7%)であった。高評価が7ポイント、低評価が2ポイント減り、「どちらともいえない」が9ポイント増えた。

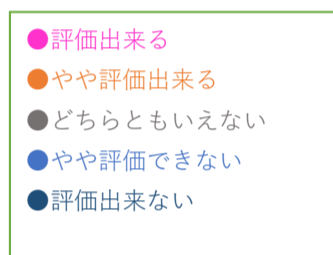
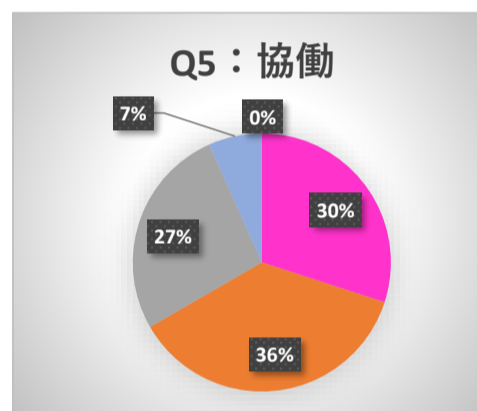
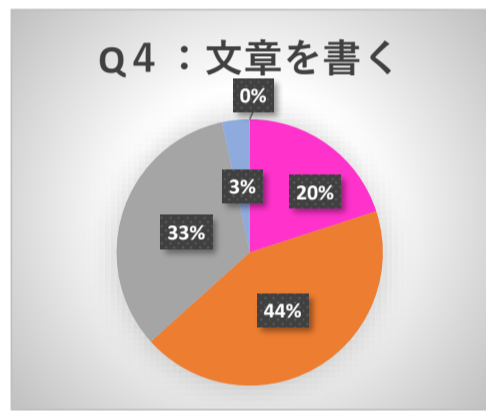
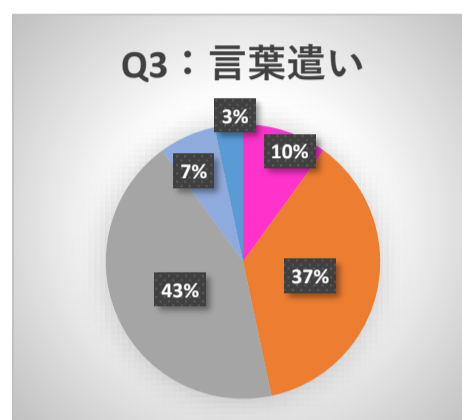
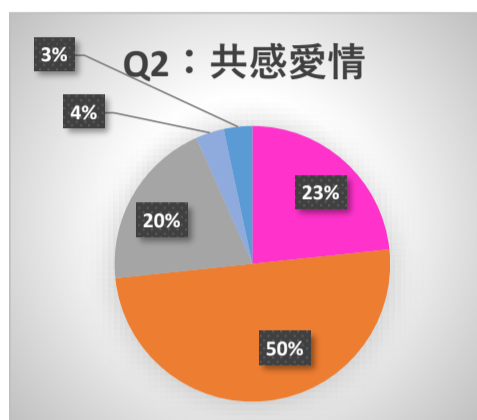
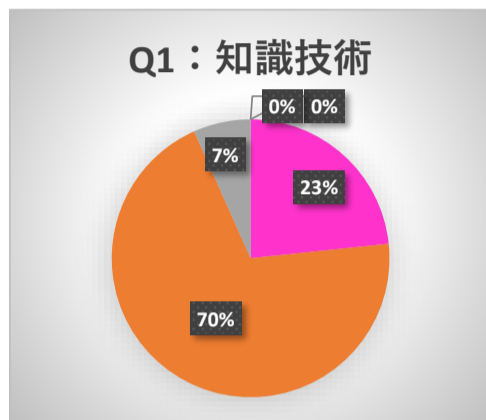
以上より、令和2(2020)年度については、すべての項目において高評価が減り、「どちらともいえない」が増えている。この年の卒業生・修了生は、最終学年がコロナ禍の1年目にあたり、前期は大幅に授業開始が遅れ、全面的に遠隔授業、後期は対面授業が復活したものの、約1/3の期間は遠隔授業であった。また、6月の2年生の幼稚園教育実習(後期)や専攻科の保育実習I(施設)を後期の授業期間に延期した。特に保育実習I(施設)については実習施設の受け入れが確保できず、学内で代替の実習を行った学生が約1/3、20名いた。コロナ禍での授業や実習の体制が従来通りにいかなかったことにより、全体的に評価が下がってしまったと推察できる。ただし、これがコロナ禍の授業体制の影響か判断するためには、在学時に遠隔授業があった令和3(2021)年度、令和4(2022)年度のデータと比較する必要がある。また、自由記述に設問で問われていることは、就職1年目で判断できる内容ではない、という指摘が複数あったことから、次年度以降のアンケートの設問について再検討が必要であるといえる。

【Ⅲ. 「2020年度 修了生（個人）へのキャリアアンケート」回答結果】 n=30

30名/56名 回収率54%

質問	1	2	3	4	5
Q1：保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	7	21	2	0	0
Q2：さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	7	15	6	1	1
Q3：保育(業務)を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	3	11	13	2	1
Q4：保育(業務)を行う上で、適切な文章が書けていると評価できますか。	6	13	10	1	0
Q5：他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	9	11	8	2	0

※評価：1－評価出来る 2－やや評価できる 3－どちらとも言えない 4－やや評価できない 5－評価出来ない



<総評>

<令和2(2020)年度卒業生・修了生(社会人1年目)からの回答結果について>

令和2(2020)年度卒業生・専攻科修了生(以下、1年目修了生)からのアンケート回答結果は、アンケート実施56名中30名の回答があり、回収率は54%であった。また、幼児保育学科卒業生からのアンケート回答結果は、アンケート実施1名中1名の回答が得られた。

Q1「保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか」(知識技術)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が93%(施設評価84%)、「やや評価できない」「評価できない」が0%(施設評価3%)、「どちらともいえない」が7%(施設評価13%)であった。施設より1年目修了生が高評価を9ポイント高くつけていた。

Q2「さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか」(共感愛情)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が73%(施設評価73%)、「やや評価できない」「評価できない」が7%(施設評価3%)、「どちらともいえない」が20%(施設評価24%)であった。Q2に関しては、施設と1年目修了生の間で1~4ポイントの評価の差であったことから、大きな開きはない。

Q3「保育(業務)を行う上で、適切な言葉遣いができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか」(言葉遣い)の項目は、「評価できる」「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が47%(施設評価60%)、「やや評価できない」「評価できない」が10%(施設評価14%)、「どちらともいえない」が43%(施設評価26%)であった。高評価については、1年目修了生が施設より13ポイントも低くつけており、「どちらともいえない」については17ポイント高くつけていた。

Q4「保育(業務)を行う上で、適切な文章が書けていると評価できますか」(文章力)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が64%(施設評価63%)、「やや評価できない」「評価できない」が3%(施設評価11%)、「どちらともいえない」が33%(施設評価26%)であった。Q4に関しては高評価については施設と修了生の間で1ポイントの評価の差であったが、低評価に関しては、1年目修了生が施設より7ポイント低く、「どちらともいえない」については9ポイント高くつけていた。

Q5「他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか」(協働)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が66%(施設評価84%)、「やや評価できない」「評価できない」が7%(施設評価0%)、「どちらともいえない」が27%(施設評価16%)であった。高評価については、1年目修了生が施設より18ポイントもつけており、低評価は7ポイント、「どちらともいえない」については11ポイント高くつけていた。

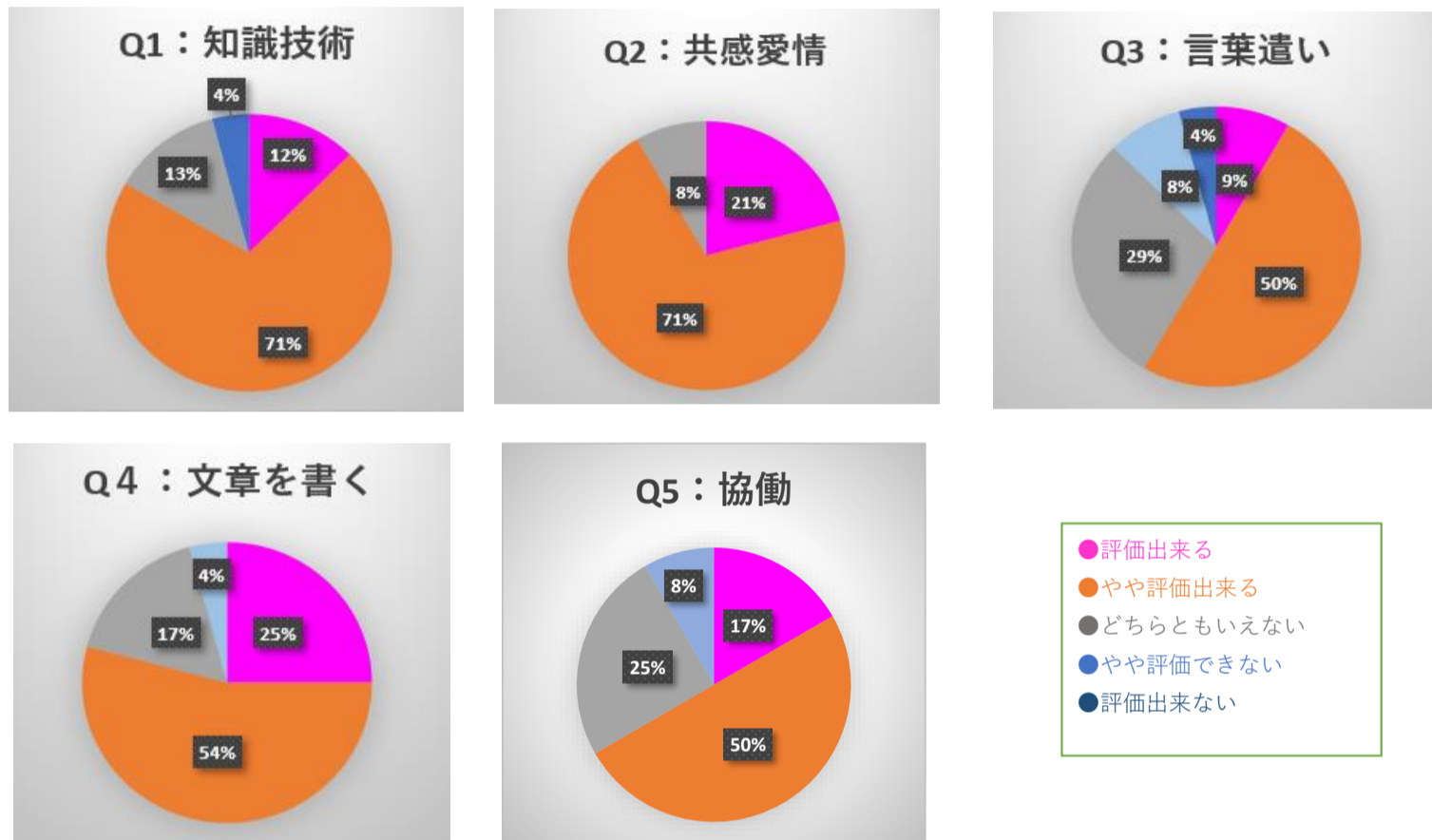
以上により、社会人1年目となる卒業生・修了生はQ1の知識・技術の項目の評価を高くつけた以外は、全体的に自己評価が低く、言葉遣いや協働の項目に関しては施設よりも大幅に低く自己評価をしていた。また、施設評価、修了生の評価ともに文章力は低い。これまでも1年次より漢字テストを行ったり、文章の添削を高く行ってきたが、これまで以上に文章力の向上を意識した授業を行う必要があるといえる。

【IV. 「2019年度 修了生（個人）へのキャリアアンケート」回答結果】 n=24

24名/53名 回収率45%

質問	1	2	3	4	5/無回答
Q1：保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか。	3	17	3	0	1
Q2：さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか。	5	17	2	0	0
Q3：保育(業務)を行う上で、適切な言葉遣いや言語表現ができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか。	2	12	7	2	1
Q4：保育(業務)を行う上で、適切な文章が書けていると評価できますか。	6	13	4	1	0
Q5：他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか。	4	12	6	2	0

※評価：1 - 評価出来る 2 - やや評価できる 3 - どちらとも言えない 4 - やや評価できない 5 - 評価出来ない



< 総評 >

< 令和元(2019)年度卒業生・専攻科修了生(社会人2年目)からの回答結果について >

令和元(2019) 卒業生・専攻科修了生からのアンケート回答結果について、アンケート実施 53 名中 24 名の回答があり、回収率は 45%であった。

Q1「保育に関する専門性を磨き、実践力を修得するとともに、さらなる専門性の向上に向けて探求し、努力していると評価できますか」(知識技術)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が 83%(社会人1年目卒業生・修了生、以下「1年目修了生」93%)、「やや評価できない」「評価できない」が 4%(1年目修了生 0%)、「どちらとも言えない」が 13%(1年目修了生 7%)であった。社会人2年目卒業生・修了生(以下、2年目修了生)は1年目修了生より高評価が 10ポイント低く、低評価は 4%高かつけていた。

Q2「さまざまな子どもの個性や、子どもを取り巻く環境について多角的に考察することができる能力・態度を身につけていると評価できますか」(共感愛情)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が 92%(1年目自己評価 73%)、「やや評価できない」「評価できない」が 0%(1年目自己評価 7%)、「どちらとも言えない」が 8%(1年目自己評価 20%)であった。2年目修了生は1年目修了生より高評価が 19ポイント高かつけていたが、低評価をつけた2年目修了生は7%低く、「どちらとも言えない」は 12%低かつけていた。

Q3「保育(業務)を行う上で、適切な言葉遣いができるとともに、保育や子どもにかかわる事象、諸問題を文献や実践などから客観的な判断に基づいて説明できると評価できますか」(言葉遣い)の項目は、「評価できる」「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が 59%(1年目自己評価 47%)、「やや評価できない」「評価できない」が 12%(1年目自己評価 10%)、「どちらとも言えない」が 29%(1年目自己評価 43%)であった。2年目修了生は1年目修了生より高評価が 12ポイント高く、「どちらとも言えない」は 12%低かつけていたが、低評価をつけた2年目修了生は1年目修了生とほぼ同じだった。

Q4「保育(業務)を行う上で、適切な文章が書けていると評価できますか」(文章力)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が 79%(1年目自己評価 64%)、「やや評価できない」「評価できない」が 4%(1年目自己評価 3%)、「どちらとも言えない」が 17%(1年目自己評価 33%)であった。2年目修了生は1年目修了生より高評価が 15ポイント高く、「どちらとも言えない」は 16%低かつけていたが、低評価をつけた2年目修了生は1年目修了生とほぼ同じだった。

Q5「他の職員と適切に協働できるとともに、チームの一員として協議や企画に積極的に参画できていると評価できますか」(協働)の項目は、「評価できる」「やや評価できる」と回答した割合が 67%(1年目自己評価 66%)、「やや評価できない」「評価できない」が 8%(1年目自己評価 7%)、「どちらとも言えない」が 25%(1年目自己評価 27%)であった。Q5に関しては2年目修了生、1年目修了生ともにほぼ同じような結果であった。

以上により、2年目修了生はQ5の協働の項目が1年目修了生の結果とほぼ同じだった以外は、10ポイント以上1年目修了生より高く自己評価をしていた。2年目修了生のデータは今回初めて実施したため、過去のデータと比較することはできないが、2年目修了生の社会人1年目の時の就職施設からの評価は、今回の社会人1年目の就職施設からの評価より10ポイント以上高いことから、経験年数を積んだことによる成長とはいいいがたい。経年でデータを収集する中で傾向を見ていきたい。